

シンポジウム

性感染症における耳鼻科の関わり

赤 枝 恒 雄

赤枝六本木診療所

はじめに

若者の性行動は無軌道で危険である。「遊ぼう!!」「ウン!!」という簡単な合意でセックスは行われる。

性教育はもとより、性交教育を受けたことのない若者達は、Hビデオ（アダルトビデオ）の世界を現実のものとして信じて疑わない。Hビデオが性交の教科書となってしまった。

そこでは売らんが為の常識外で刺激的なセックスが行われている。若者達はビデオの真似をする。その一つが“フェラスポ”というインスタントセックスである。フェラチオのあとすぐ、スポッと挿入するからこの名前がある。

若者に人気の風俗はほとんどこのコンドームをつけないフェラチオ（オーラルセックス）が中心の店である。

ここでは女性の口を介してどんどん性感染症が広がってゆく。もはや性器と性器ではなく、性器外での感染が増加している。

性器外感染の背景

若者は、アダルトビデオの影響で男性本位のセックスを女性に強いる傾向になってきた。その中でもごく一般的になってきたのがフェラチオ（オーラルセックス）であり、所かまわず洋服を脱ぐこともなく目的を達してしまうので男性には好まれている。若い男女の関係を見ているとまだまだ男性優位で「カレに嫌われたくない」から受け入れてしまう。

一方、性風俗の店も多種多様になってきた。ソープランドは20才以上でなければ働くこと

が出来ないので女性の年齢が高く、料金も高いから若者は利用しない。事実ソープランドは年々減少している。

しかし、手軽にフェラチオで処理する風俗は激増しており、デリバリーヘルスといった無店舗型風俗や個室マッサージが出現し、酒場でフェラチオ処理をするピンサロ（ピンクサロン）が若者には人気だ。

浮気されるより風俗に行くなら仕方ないとあきらめている女の子も多い。しかしフェラチオでコンドームを使用する人は皆無であり、風俗で性感染症にうつる危険性は大きい。

このような状況で口腔を介した性感染症が増えている。

若年者の性感染症

性感染症は1993年頃よりクラミジア、淋病ヘルペスが右肩上がりに増加しているが、クラミジアの急増には何かしらの対策が急務であると思う。

著者の診療所でも平成13年、14年と調査したところ10代のクラミジアは21人→40人と倍増し20代でも74人→106人と50%の増加であり、若年者のクラミジア感染は増え続けている。他の性感染症は大きな変動がないことから、クラミジアの急増は特異的である。「エイズの前にクラミジアあり」と言われているように、クラミジアに感染するとエイズに5~10倍も感染しやすくなることを考えれば、エイズの前にこのクラミジアを撲滅しなければならない。

産婦人科医から見たクラミジア

産婦人科医は患者帯下からクラミジアや淋菌を調べるのだが、最近「のどの違和感」を訴える女性が多く、こんな場合、帯下のクラミジア抗原と血液のクラミジア抗体を調べることにしている。淋菌も抗体検査が出来るといいのだが、今のところない。婦人科のクラミジア検査は、子宮頸管を綿棒でこすって、細胞を採取する。しかし、クラミジアに感染している人はこの子宮頸管部にピランがあり、綿棒でこすると出血し、検査不能となることが多いし、排卵頃の頸管粘液も同時に採取してしまうと検査結果が「異常なし」となってしまう。その点、帯下から採取した細胞を検査した方が陽性率が高い。

どうして、陽性率にこだわるかと言えば、クラミジア抗体の検査をして、子宮頸管周辺にクラミジアが存在しているかどうかは、口腔のクラミジアの存在と大きく関係してくる。帯下にクラミジア抗原陽性であれば、当然クラミジア抗体 IgA は陽性になることが多いと思われるし、帯下陰性でクラミジア抗体 IgA 陽性なら、ほとんどの場合、

口腔中のどこかに感染していると想像される。クラミジア抗体 IgG は感染後治療が終っていても、比較的長期に検出されるのであまり意味がない。

最近、クラミジア抗原が陰性、抗体陽性例が多く見られる。若年者の性風俗の現状と合わせて考えると、フェラチオによる口腔内へのクラミジア感染が疑われる。

産婦人科医なので、咽頭からの綿棒による細胞摂取はむずかしい。試みたことはあるが、吐き気によって阻まれる。

今後の対策

のどの違和感があって、クラミジア抗体 IgA が陽性の場合、耳鼻科でよく診てもらおうように言って返すが、どうも耳鼻科で相手にされないようだ。

我々婦人科の立場として、帯下のクラミジア抗原が陽性でクラミジア抗体 IgA 陽性の場合、ほとんど婦人科で完結するものだという自信はあるが、クラミジア抗原陰性 IgA 陽性の場合、咽頭クラミジアの有無を無視していいものかどうか悩んでいる。

私は知人の耳鼻科医に紹介状を持たせている。一部の発表によれば、女性でクラミジア抗原陽性の場合、咽頭にもクラミジアが感染している率が30~60%と言われている。しかし、今のところ、綿棒による検出率は低い。咽頭クラミジアの検出にはPCR法が適さないという報告もあり、今後検査方法も含めた、耳鼻科領域でのクラミジア包囲網の構築が望まれる。

まとめ

性感染症は全科にわたる疾患であるが、現在では、ほぼ皮膚科、泌尿器科、婦人科で対応すると決まっている感がある。

しかし、若年者の多種多様な性行動の結果、口腔内への性感染症が拡大している。

この現実に対し皮膚科医、泌尿器科医はもちろぬ産婦人科医も口腔領域への配慮をしながらより幅広い視野が必要になってきた。

性感染症は急性期から適正な治療で完全に治癒すればいいが、治療の途中でやめたり、慢性化させると日和見感染症と同じく症状が見え隠れし、将来重大な後遺症を引き起こすことになる。不妊症や子宮外妊娠はよく知られているが、慢性の性感染症についてはあまり知られていない。

炎症が慢性になると、自律神経失調症のような、イライラや体のだるさが出現し神経症と診断される場合もある。

このように、性感染症は死と直面するエイズだけでなく、比較的軽度に行進する慢性型が多く、将来内科や神経科を巻き込むやっかいな疾患である。

耳鼻科医を含めた病診、診診連携を蜜にした

性感染症対策が必要である。

連絡先：赤枝 恒雄
〒106-0046
東京都港区元麻布 3-1-30
赤枝六本木診療所
TEL 03-3405-1388 FAX 03-3403-4680